

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171501075		
法人名	(有)Win北陽		
事業所名	グループホーム北陽		
所在地	北海道北斗市東前74-1		
自己評価作成日	平成26年11月5日	評価結果市町村受理日	平成26年12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0171501075-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北陽は北海道新幹線の開業を目前に控え、活気あふれる北斗市の田園地帯に立地しています。函館山や横津連山、木地挽山や駒ヶ岳を望め、四季の移り変わりを感じながら生活出来ます。地域との交流も多く、小学校の運動会・生活の授業・餅つき、町内会の観桜会・環境整備・夏祭り、幼稚園児の訪問があります。また近年では夏の七夕の他に、冬に焼き芋会を行っております。全校生徒120余名に入居者から焼き芋を手渡しして頂き交流を深めています。更に今年度はホーム主催の夏祭りを行い入居者・ご家族のみならず地域との交流の機会も増やしました。入居者のADLや認知症は徐々に進んでいきますが、それでも出来る事を出来るまで行っており、少しでも多くの笑顔と笑い声が飛び交うよう、職員一丸となり明るく取り組んでいます。対外的な活動としては北斗市の認知症キャラバンメイト『ほくとメイト』、北斗市認知症の人と家族の会『すみれ』の活動に積極的に参加し、地域の方への認知症の周知・啓発活動も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かな田園地帯に立地している。法人代表者は長年にわたり、高齢者福祉に携わり、隣の七飯町に於いても豊富な経験を活かしながら事業を展開している。職員の資格取得に理解を示し、補助金、合格祝い金などのシステムを導入し、職員の育成に繋げている。市内各所でサポーター養成講座の講師を務め、子供用パンフレットを利用して小学生対象にも実施するなど、認知症の啓発にも積極的である。幼稚園児の歌とお遊戯、フラダンスや詩吟などのボランティアを受け入れ、地域との交流を図り、利用者は春は蛙の鳴き声、秋には鈴虫の鳴き声に季節の移り変わりを感じ、笑顔でゆつくと、穏やかに、のんびり楽しく暮らしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掘んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掘んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングで理念を唱和している。広報誌にも理念を記載し、家族・関係機関にも周知している。	利用者が、その人らしく地域の中で快適に暮らせることを主幹とした法人理念と、職員全員で考案したユニット理念を毎朝、唱和し実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会や学習発表会への参加、夏祭りや焼き芋会への招待等、一年を通じて多岐にわたる交流を行っている。	小学校との交流は活発で、法人代表が子供向けサポーター養成講座を実施したり、焼き芋会に招待している。町内神社の「新嘗祭」に出向くなど地域との交流は図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの活動としてサポーター養成講座を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況報告、意見交換、行事・避難訓練への参加を行っている。	行政担当者や町内会、小学校長、消防署など各方面の構成員の参加で、定期的に開催している。運営状況、行事、活動、災害対策など多岐にわたり協議しサービスの質の向上に繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	北斗市の保健福祉課との情報交換を密に行っている。家族会やキャラバンメイトの活動も積極的に行い担当者との関係を築いている。	行政担当者とは相談事、報告書提出、介護保険などの連絡事項と、法人代表者は行政からサポーター養成講座講師を受託し、市内各所で認知症の啓蒙に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で、転倒等のリスクに対して介護上の工夫を話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間の玄関の施錠は防犯理由で行っている。	身体拘束廃止宣言をしている事業所で、外部研修に参加した職員による伝達講習を実施している。社内研修で事例体験を取り上げ、全員で原因究明に取り組むなど、拘束に対する意識は極めて高い事業所である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や新聞記事を基に制度・内容の理解を深めたり、日々のケアについて話し合う機会を作り、職員がストレスを溜め込まないように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し、対象となる利用者が発生した場合には、対応できるように理解・周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書、重要事項説明書、パンフレット等を用意し、起こりうるリスク等も説明し、納得して頂いたうえでやっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や表情から想いをくみ取る努力をし、家族に対しては面会時に積極的に話しかけ、意見・要望を伺うようにしている。家族会での意見も頂く。	家族会では活発な意見交換が行われ運営に反映させている。運営推進会議に市の家族会会長の参加があり、法人代表も副会長の立場で常に家族の声に理解を示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	概ね月に一度ユニット会議で意見の摺り合わせや吸い上げを行っている。勿論会議に捉われず、日々のコミュニケーションからでも機会を設けている。	職員の資格取得を奨励し、補助金や、合格祝い金で職員の努力を認めている。研修会参加、資格取得講習、リフレッシュ休暇など、職員の意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は気持ちのゆとりこそが、ケアの質の向上に繋がると考え、希望休暇を考慮することで、職員のプライベートの充実に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じた研修参加を事業計画に載せており、実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道GH協議会、キャラバンメイト等の研修や活動に積極的に参加して、地域・利用者・家族・職員に還元できるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に御家族、施設・病院の担当者から得た情報を基に本人と面談を行い状態を把握するようにしている。それを基に以前アセスメントを行ってホームでの支援に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム全体で一律な対応をするのではなく、一人ひとりの利用者に応じた柔軟な対応をする事を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には他職種や関係機関と相談を行い、他のサービス事業者からも情報を収集し必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の想いを共感理解するよう努める。一方的な介護ではなく不満・文句も受け入れ、時には言い争いになることもある。それを機に信頼関係が構築されることもある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のネガティブな情報も積極的に伝えている。職員にとっての困難事例でも、実は家族にとっては簡単な事かもしれない。暮らす場所は違っても共に暮らしているという感覚を持って頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の訪問、行きつけの床屋の継続利用、家族旅行等、様々な方の協力を得ながら実施している。	知人・友人の訪問は事前に家族から情報を入手し、家族の意向を確認してから実施している。従来の美容室や、昔住んでいた場所に拘る利用者などには柔軟に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性等に配慮して、職員が間に入り支援するように努めている。また家事を一緒に行うことや、役割分担をすることで利用者同士が支え合うことが出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、他施設への訪問をしている。また家族と話す機会もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	瞬間瞬間の気分を察し、言葉やトーン、表情から意向を把握するようにしている。さらに気づきは職員で共有し、その人らしい生活が送れるよう支援している。	日々のケアの中から利用者の表情で気持ちを受け止め、本人の生活歴を職員間で共有し、その人らしく過ごせるよう支援している。困難な時には家族から情報を得ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族等からの聞き取りにより情報の収集を行う。入居後は本人との関わりの中で少しずつ情報収集し整理している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握している。出来ることを見つけ、他者との関係を保ちながら行っていたい。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から想いや意見を聞き、日常の様子から想いを深く読み取り、職員全体で話し合いを行う。	グループホーム用計画書に本人、家族の意向を取り入れ、全職員が生活全般にわたり、聴取・観察・見守りなどで記録したアセスメントシートを基にユニット会議で討議し、現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録などの情報をもとに現状のニーズをすくい上げることができるよう検討している。実践後の見直しを行いながら意欲的に情報交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の職員対応をはじめ、季節に応じた外出支援など、本人・家族の希望・状況に合わせ対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園・小学校・町内会と交流をもち、様々な活動にお互いに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医のほか、必要に応じて専門医の受診・訪問受診もあり、複数の医療機関と関係を密にしている。	従来のかかりつけ医の受診は家族対応としているが職員の代行もあり、協力医による定期的往診と看護師が週1回訪れ健康管理をし、緊急時や夜間対応も整えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携契約に基づき、看護師に日常の健康管理、緊急時の指示・対応、医師との連絡を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者、家族と密に連絡を取り、早期退院ができるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時にターミナルケアの指針を説明している。実際に重度化した方には家族に文書と共に口頭で説明し、了承を得ている。	重度化に伴い家族の意向を尊重した指針を明確にし同意を得ている。医療機関と協力体制を整え、家族には医師が話すこともあり、職員と方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを掲示し職員全員に周知している。また、AEDを設置し使用方法の講習を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害に対する訓練を行っている。夜間想定避難訓練も行っている。スプリンクラーや火災報知器を完備し定期点検も行っている。	年2回、各種訓練を地域の方の参加で実施し、居室の表札に個人記録がある。火災報知機は自動的に消防署と連動され、耐震基準を満たしている事業所である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議の場で職員の意識向上を図るとともに、日々職員間で点検・注意しあい利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を徹底している。	利用者を人生の先輩として敬い、呼び名も本人にとって一番心地良い呼び名で接し、全職員で意識の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望表出して頂いて自己決定される場合や、困難な利用者に対しては習慣や表情などからくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを基に生活して頂いています。ただ廃用症候群予防の為、職員から関わりを持ちメリハリをつけた生活を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択ができる利用者には本人の好みで選んでいただく。選択できない利用者にはその人らしい服を職員が選り対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	和・洋・中、様々な料理や季節に合わせたもの、郷土料理などを提供している。利用者の状態に応じて準備・片づけを行っていただいている。	食材は地産地消とし、献立は職員が交代で作成している。外食や弁当持参のピクニックと法人代表の手打ち年越しそばは恒例となり、利用者が美味しく楽しく食事できるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ量を調整したり、禁忌食への配慮、脱水予防や浮腫予防に対し水分量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員全員が理解し、起床・毎食後に歯磨きを促し、出来ない方には介助で行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿・排便のチェックをしている。また排泄時のサインを読み取ることでトイレでの排泄が出来るように心がけている。	トイレ内に呼び出しコールがあり、便器の高さに差をつけて利用者の身長により使い勝手の良い方を使用している。排泄チェック表で定期誘導を行い自立排泄に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事バランスと体操、最後に処方薬といった対応を取っている。ただ便秘を気にしている方には気をそらすような心の働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向や気持ちを考えながら行っており、気分が乗らないのなら、変更することもある。	週2回の入浴を目安にしているが拒否傾向の時は強制することなく、職員を変えたり日時を変更して対応している。浴室の富士山の絵は銭湯の趣があり、電動のバスリフトが設備され、楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠のために日頃からコミュニケーションを図って穏やかな生活をしている。その時々での不安に対しては傾聴し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の変更時は様子・状態観察を強化している。また、副作用の情報を職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割を探し出し、他者との調整を行いながら、充実した日々を過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状態に合わせ、散歩・ドライブ・イベント見物などを行っている。冬期間も車から降りることは少ないがドライブを行うこともある。	春は桜名所巡りで遠出のドライブを楽しみ、近隣の散歩で農家の方からお花を戴いたり、近くの小学校の運動会、クリスマス会など地域との交流もあり、外出の機会が多くある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、ご家族と相談の上、少額の入った財布を所持して安心してもらっている。その他の方はホーム管理としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎを行っている。携帯電話を使用していた方もいた。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾を行っている。トイレや浴室等は利用者の状態に合わせた標記にしている。(トイレ・便所等)	中央にある玄関前でペット犬のお迎えがあり、食堂と居間は吹き抜けで開放感があり、屋根の窓からの採光がほど良く不快な臭いもない。壁には絵や書が飾られ季節感のあるものを活用し、居心地の良い場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを観たり、談笑したり、玄関フロアでペットの犬を見て安らいだりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い入れのある家具や使い慣れた物を持ってきて頂いている。	居室には大きめの押入れが備え付けであり、畳敷きの部屋が多く自宅との環境の差に配慮しており、使い慣れた馴染みの物を取り入れながら落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身状態を把握し安全を確保された環境で生活できるよう取り組んでいる。		